



朝来市地域おこし協力隊レポート

2020

INTRODUCTION

朝来市地域おこし協力隊と受入れ体制

MEMBER 1.

田口 亮

MEMBER 2.

西村 知亜

MEMBER 3.

諏訪 正和

MEMBER 4.

Kevin Nel

MEMBER 5.

Rehan Nel

TALK SESSION

金丸 真次郎 × 吉原 剛史 × 堀之内 智裕

MESSAGE

朝来市地域おこし協力隊OB・OGの近況報告



朝来市地域おこし協力隊

朝来市では、平成26年度から地域おこし協力隊の制度を導入しています。これまでに13人の隊員が任期を終え、内12人が市内に定住しています。現在は計5名が活躍中。地域のみなさんとともに、地域を元気に、楽しく、そして、自分らしく、いきいきとがんばっています。



フォローアップ体制について

隊員それぞれのミッションが実現するように、フォローアップ研修会の開催や、協力隊が集まる定期ミーティングの実施による「悩みの共有」や状況を打開するための意見交換会などをおこなっています。



また生活の支援・活動の支援は、所属団体において相談できる者を明確にすることを心掛けています。海外から着任した隊員には市の国際交流員などによる支援をおこなっており、初めての土地でもいきいきと活動ができるよう隊員の状況に応じたきめ細やかなフォローアップ体制を整えています。

思いを確認し合う「三者研修」の実施

地域おこし協力隊制度において、隊員は最大3年間の期間の中で、「地域が求めるミッション」と、主に「任期後の生業づくり」につながる活動が求められます。この2種類の活動が必ずしも、1つの道につながるとは限りません。



その場合「隊員」・「地域」・「自治体」という三者の思いのズレにつながらないように、それぞれが求めることや、ミッションの進捗状況などを確認する「三者研修」を実施しています。

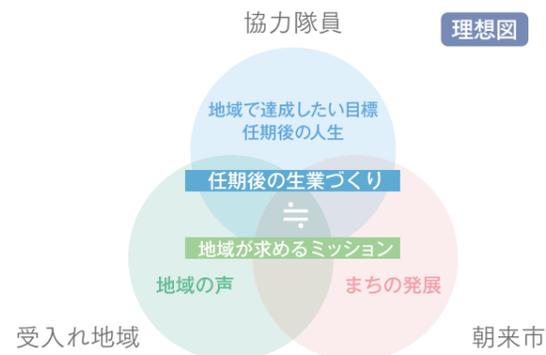


また市長や副市長、地域の関係者の皆さんに対して活動状況を発表する場を設けることで、隊員は新たな協力者を得たり、活動の方向性の確認をしたりしながらミッションの達成を目指します。

協力隊の3年後の理想形と活動のバランス

「地域が求めるミッション」と「任期後の生業づくり」の2種類が、任期後にそのまま隊員の生活を支える収入へとつながることが理想ですが、難しい場合は3年後を見据えながら3者で活動のバランスを話し合います。

協力隊のフォローアップ研修では、「地域支援活動」と「定住に向けた活動」、「チーム活動」を【5:3:2】の割合になるように話し合いをしています。



撮影 | レハン・ネル / ケビン・ネル
 インタビュー | 田口 亮
 文章 | 諏訪 正和
 誌面デザイン | 篠原 諒太 [協力隊OB]



あたり前の事でも僕は言う あたり前でない事でも僕は言う
 地域に寄り添い 農業を盛り上げたい

私のミッションの大きな柱は、与布土地域自治協議会での農地管理法人の設立支援です。その主な目的は、使われていない農地が荒廃するのを未然に防ぐこと。与布土地域には既に遊休農地となった田畑がたくさんあります。田畑は一度荒れるとその後を引き継ぐことがより一層難しいものです。それを食い止めたという、住民主体のプロジェクトです。赴任から2年目の春に一般社団法人「よふどの恵」を立ち上げミッションは達成、現在ではスタートアップの支援で主に事務的な業務に携わっています。会計や、経理、決算書類の作成などがほとんどですが、今後の自分の生業を作っていく上でも大切なスキルだと考え経験を積ませていただいています。

先日、とある農業者のビニールハウスの設営を手伝いました。それが私にとって大変おもしろい体験でした。と同時に、作業しながら彼と将来のビジョンについて語り合うことでとてもワクワクしたんです。もともと日本の農業は、“ゆい”と呼ばれる相互扶助の精神で成り立っていました。それが戦後急速に近代化したため、昔からの価値観と、農業が本来もつ大切な意味が失われてしまったという声もあります。食料の増産を目的とした農業が役目を終え、次の時代を生きる私たちが新しい農業の価値をつくっていく。古いものには価値が無い訳じゃない、創造し直すことで新たな価値を与えられるはずなんです。むしろ長く大切にされてきた考え方を見つめ直すことこそが、これからの時代をつくるための第一歩なのだと思います。

法人を設立したので、現在は任期終了後の生業づくりに多くの時間を割いています。今後の軸となる考えは、新規就農者の支援をするというものです。そのため、起業・継業の学校に通いビジネスプランの作成を学んだり、より専門的な農業の知識を身につけるため土壌改良の資格の勉強をしたりしています。その上で、実際に朝来市内外を巡り農業者と関わるなか、私自身が大切にしたいこだわりも見えてきました。昔からある古いものから学びつつ、これからの時代に合った新しい何かを作り出したいという想いです。私は先頭に立ち誰かを引っ張っていくよりも、主体的な“従”である事の方が割と性分に合っているんです。なので私が支えとなり、彼らと二人三脚で地域の農業を盛り上げる仕掛けを作っていきたいと考えています。



<profile>

大阪府岸和田市出身。工業大学の化学科を卒業した後、塗料メーカーに勤務。30歳を過ぎた頃から農業全般に関心を持ち、会社員をしながら農業学校に通う。2018年7月より与布土地域自治協議会にて、地域運営組織の法人化およびその運営に関わっている。

山東町エリア
 与布土地域自治協議会 所属
 2018年着任



西村 知亜

Chia Nishimura



ある日は温泉の運営 ある日はお菓子工房の店主 常に今を大切に 人から求められる場所にいたい

生野駅から車で30分、黒川地域と黒川温泉のPR及び運営支援が私のミッションです。温泉の業務を手伝うなか、1年目は主にPRイベントの企画開催、2年目以降はコロナの影響もあり、少しずつ任期後の生業づくりに時間を費やすようになりました。もともと大阪で飲食業に携わっていた経験もあり、自宅の一部をDIYで改修しお菓子工房『そらしーど』を試験的にオープン。温泉の土産物売場で「米粉のサーターアンダギー」を販売させてもらっています。現在では工房の隣に飲食スペースを増設中。協力隊任期3年目の2021年4月の開業を目指しています。このお店を黒川の活動拠点にし、他の協力隊と繋いで黒川地域だけではなく朝来市全体を盛り上げていきたいです。

お菓子工房の記事を新聞に取り上げていただいた日には「今日出たやろー」と多くのお客さんが訪ねてくれました。それが温泉に入りに来たついでではなく、お菓子を買うためだけに遠方から駆けつけてくれる方もいたほど。また、協力隊1年目の頃に温泉へよくいらしていたご夫婦の奥様から、大切にしている着物をリメイクした手作りカバンを贈られたこともあり、「いつも笑顔で接してくれてありがとう」っ

て。協力隊として地域に溶け込んでいるからこそ、みんなが私の存在を知って応援してください。こうして声をかけてもらえるのはありがたいこと。人から求められる場所にいたいんです。

自宅の裏にある畑では野菜も作っています。作りたいものを自分で作るのが田舎暮らしの好きなところですね。これまでの人生で農作業の経験はなかったけれど、今ではお米まで自分で作るほどに。『ちあちゃんちのお米』として温泉で販売していますが、それも地域の方の後押しがあったから。私が市販のお米を食べていたら、「黒川のお米の方が美味いから。ここの田んぼが使えるから米も作り。」と一から教えてくださいました。黒川での暮らしは、今やりたいことにチャレンジできる環境。赴任当初に私が思い描いていた、キャンプ場を作りたいというイメージが今ではカフェに変わりました。常に今を大切に生きているからこそ、私にはこれから叶えたい夢ってないんですよ。この先どうなるかなんて誰にもわからないし、これで良かったかどうかは死ぬ時にわかるんだろうな。走るよりも歩くようなペースでゆっくり私らしく生きていきたいです。



"第三の居場所" サードプレイス いつも誰かが居てくれる場所

朝来市役所総合政策課に配属され『中高生のための学びのサードプレイス』のコーディネーターとして活動しています。サードプレイスとは“家庭”でも“学校”でもない、子ども達にとっての“第三の居場所”のこと。主なミッションは、公共施設である生野メインホールのロビーの一角に、子ども達が自由に集まれる場を作るといったもの。しかも公共の空間を利用することで地域の大人との接点を増やすという副次的な目的もありました。朝来市の大きな構想が既にあるなか、2018年8月に私は生野に着任しました。そこから10月までの2ヶ月はサードプレイス開設までの準備期間。市の担当者と考えをすり合わせ、同時にチラシ作りや学校等への挨拶回り。そしてサードプレイスを開始するも、「サードプレイスって結局は何なんだろう？」としばらくは暗中模索の日々でした。

多様性を大事にすべく老若男女誰でも受け入れる場にこだわりましたが、日によっては子ども達がただ騒いでいるだけ。果たしてそんな場所に意味はあるのか。地域の方にそう問われても当時の私には返す言葉が見つかりません。手探りだったサードプレイスのイメージが次第にクリアになったのは開設から約1年後。スピンオフ企画として、いくの地域自治協議会と『何にもしない合宿』を共催した頃です。主催者は場を提供し、参加者はそこで自由な時間を

各々過ごす。静岡県裾野市の事例を参考にしたアイデアです。ここでひとつの気づきがありました。主催する地域の大人と参加する子ども達、両者の顔と名前をきちんと認識しているのは私だけだったんです。子ども達と地域を繋ぐ自分の役割を実感した瞬間でした。活動を応援してくださる地域の方が増えてきたのもこの時期です。

サードプレイス開設から1年半ほど経った2020年春。コロナの影響を受け、公共施設である生野メインホールも1ヶ月ほど閉鎖されました。にもかかわらず窓の外からは聞き慣れた子どもたちの声が。「スワさんちょっと出てきてー」屋外で子ども達とふれあうなか、私にはある発想が浮かびました。サードプレイスという言葉にはもっと広い意味があるのではないかと。ひょっとして私自身が彼らにとってのサードプレイスになり得るのかもしれない。任期終了後の定住を考えていなかった私が、これを機に生野に残ることを少しずつ意識するようになりました。現在では、生野メインホールでの活動に加え、自宅の一部を地域の子も達に開放する取り組みをしています。これは任期後の生業づくりの一環として絵画教室をしながら、その空き時間を利用した“私設サードプレイス”。これまで蒔いてきた種がようやく芽を覗かせてくれたような心境です。



諏訪 正和

Masakazu Suwa



生野町エリア
朝来市役所生野支所 所属
2018年着任

<profile>

大阪府松原市出身。大阪では工作機械専用木型を作る父と家業を営み、2018年7月よりかねてから訪れていた生野町黒川へ地域おこし協力隊として就任。黒川地域の活性化、黒川温泉のPR及び運営支援をおこなっている。



生野町エリア
朝来市役所総合政策課 所属
2018年着任

<profile>

東京都葛飾区出身。美術大学油絵科を卒業したのち、絵画教室の講師、保育士を経験。その後、青年海外協力隊としてエジプトへ。帰国後、2018年8月より朝来市地域おこし協力隊に着任。中高生をはじめとする子ども達を対象としたサードプレイスの開設、運営に携わる。



Kevin Nel

ケビン・ネル

双子の弟とサイクルツーリズムで 朝来地域から世界へ魅力を発信する

私は姫路市のALTとして3年間過ごしたのち、2020年8月に朝来市に採用され、朝来地域自治協議会に着任しました。私の主な活動は、日本遺産「鉱石の道」、産業遺産「神子畑選鉱場跡」を中心とした朝来地域の魅力や観光PRを広く外部に発信し、朝来地域への来訪者の増加を目指すことです。現在は、CADや3Dプリンターを用いた鉱石の道のお土産づくり、およびPRパンフレットの作成をしています。私はかつて南アフリカのヨハネスブルグ大学で工業デザインを専攻していました。神子畑選鉱場跡に昨年6月にオープンした交流館『神選』には私の工房もあり、そこで3Dプリンターを使い、高い技術力と精巧なデザインを持ち合わせたお土産を作っています。3Dプリンターの技術に関心のある方や地域の子どもの見学も随時受け入れています。

また、私の趣味でもあるサイクリングを用いた地域おこしにも力を入れています。自転車愛好家だけでなく観光客にもレンタルサイクルを利用してもらい、神子畑ならではお土産の開発とサイクリングツーリズムによって複合的に朝来地域を盛り上げる計画です。そのためまずは拠点となるサイクリングステーションを作る予定です。お土産の販売やレンタルサイクルの受付も兼ね備えた、サイク

リストの憩いの場です。同時に、パンク修理やメンテナンス、送迎のためのサポートカーを随時走らせ、GPSを用いて利用客の要望にリアルタイムで応じる仕組みづくりも考えています。近年、播但沿線を訪れるサイクリストは飛躍的に増加しているというデータもあり、昨年末には自転車ごとJR播但線に乗って「銀の馬車道・鉱石の道」を巡る『サイクルトレイン』というイベントにも関わらせていただきました。

サイクリングに特化した観光には、同じく協力隊として生野で活動する弟レハンの連携を考えています。彼が生野に開業予定のゲストハウスを宿泊客の拠点とし、そこから鉱石の道を辿り明延鉱山・中瀬鉱山へと自転車で巡ります。今後は協力隊のOBやOG、現役の協力隊員とも協働し、朝来市内だけでなく但馬全域を繋いでいければと思っています。3年後の協力隊任期終了までにサイクルツーリズムの事業を法人化し、国土交通省が推進する兵庫県下のサイクリング計画と連動する形で運営を進めていくことが目標です。なお私が管理するフェイスブックページ「asago_cycling」では、私や弟の撮影した美しい朝来市内の風景写真とサイクリングの様子を紹介しています。ぜひご覧ください。

世界に生野の魅力を届けるゲストハウスの開業をめざして そして愛すべき生野の町並みと人々を母国の父に紹介したい

私は北海道のALTとして3年間過ごしたのち、2020年8月いくの地域自治協議会に配属されました。主なミッションは空き家を含む生野の文化的景観の保全および利活用です。鉱山町である生野は私のふるさと南アフリカと類似している点も多く、北海道に住んでいた頃にもたびたび生野を訪れていました。生野の古い町並みは他の田舎町と比べても大変特徴的で、私はこれまでにたくさんの写真を撮りました。初めて来日する外国人のほとんどは東京・大阪・京都といった大都市をまず訪れますが、2回目以降は地方都市や田舎に足を延ばすことが多いようです。海外へ向けてSNSで生野の魅力を発信することも、私の活動のひとつの柱です。

活動の中心となるのは、空き家を活用したゲストハウスの立ち上げ及び運営です。着任から数ヶ月は生野の空き家物件を調査、把握することから。現在は関係各所との調整を行いながら、次年度のゲストハウスオープンを目標としています。また、同時進行で3Dプリンターを用いた生野ならではの土産も開発中。宿泊施設以外にも多角的に観光資源を充実させることが、観

光地としてのこれからの生野に求められていることだと感じます。作成中のウェブサイトで海外からも簡単に宿泊予約をとれるようにしたり、ドローンで空撮した生野の映像を紹介したり、私の持っているスキルをフル活用して生野の活性化に努めていきたいと考えています。

将来的には、同時期に朝来地域で活動する兄のケビンと連携し、私たち兄弟の共通の趣味であるサイクリングを用いた地域おこしを計画しています。姫路・飾磨港から生野銀山へ延びる銀の馬車道、そこから明延鉱山・中瀬鉱山へと続く鉱石の道は、近年多くのサイクリストから注目の的ですが、生野で始める予定のゲストハウスを拠点とし、自転車で朝来市内だけでなく播但エリアを巡るこれまでになかったパッケージプラン。朝来市はまだたくさんの可能性を秘めています。その魅力を世界中の人々に知ってもらえることが私の喜びです。生野に移住して約半年、地域のたくさんのの方に支えていただきました。今の願いは、南アフリカで暮らす私の父親を朝来市に招待すること。私の大好きな生野の町並み、愛すべき生野の人々を父に紹介したいです。

Rehan Nel

レハン・ネル



<profile>

南アフリカ共和国出身。ヨハネスブルグ大学工業デザイン専攻を卒業後、デザイナーとして活躍。その後、姫路市でALTとして3年間過ごしたのち、2020年8月より朝来地域自治協議会に着任。朝来地域にある日本遺産「鉱石の道」や産業遺産「神子畑選鉱場跡」などの活用および魅力発信が主なミッション。

<profile>

南アフリカ共和国出身。ヨハネスブルグ大学工業デザイン専攻を卒業後、デザイナーとして活躍。その後、札幌市でALTとして3年間過ごしたのち、2020年8月よりいくの地域自治協議会に着任。いくの地域の文化的景観の保全と空き家の利活用が主なミッション。

朝来町エリア
朝来地域自治協議会 所属
2020年着任

生野町エリア
いくの地域自治協議会 所属
2020年着任

2020年12月に地域おこし協力隊の任期を終了した金丸 真次郎さん。任期後の生業に「狩猟」という共通項のある3人。3年間の思い出や、これからのことを話そうと、先輩OBのお2人が金丸さんの拠点(金丸ベース)を訪れました。



金丸 今日はお越しいただいて、ありがとうございます。お二人の最近のこととか聞かして欲しいです。ざっくばらんに話してくださいね。最初に、ずばり、最近はどうですか(笑)

吉原 そりゃ、今は「コロナのバカヤロ」って感じだよ。

堀之内 そうですね、ボチボチやっていますがやはりコロナ禍でいろいろつらいですよ。

吉原 卒業して3年経ったけど、3年間の間にいろいろやってきて、最初は鹿肉の精肉事業で、まあ期間中に準備もしてきたから特に大きな変化はなくて、次は竹田のまちに賑わいを創りたいなと思って今のお店を始めて、コロナでこんなことになっちゃった(苦笑)

金丸 3年たった後で移行する時ってスムーズにいききましたか?

堀之内 僕も特に任期の3年目は卒業後のことを見越して、耕作放棄地への野菜栽培に集中して取り組んでいたの、比較的スムーズに移行できました。

吉原 まあ、僕らは二人とも任期途中から準備を進めていたので、卒業してガラッと変わることもないよね。最近同期の松木君が兵庫県地域おこし協力隊ネットワークの会長になったりし

て、彼はいろいろ変化があっただろうな。

堀之内 最近テレビにも出演されましたね。

吉原 ここんとこ出会ってないけど、同期としては元気そうで嬉しいよ。

任期中のこと

金丸 2人とも任期中は、今されていることばかりしていたわけではないですよ。

堀之内 みそを作っているグループを支援していたので、その時に「作ったものを販売する」という事にかかわれたのは良い経験になりました。

吉原 ナツメっていう果樹があるでしょ?リンゴのちっちゃいようなやつ。あれ、日本ではそんなにポピュラーじゃないんだけど、海外では栄養価も高くてよく食べられるのよ。美容にもいいし。「これだ!」って思ってね。しかもほったらかしでいいことだし、ナツメの苗を借りてた山際の畑に植えたんだよ。そしたら、鹿に食われちゃって枯れちゃった。猟師になりたいって気持ちが特に強くなったよね。

堀之内 猟師には最初からなろうと思っていたんですか?

吉原 そうそう、山にまつわる猟師っていう仕事は、趣味であれ本業であれ、したいって思った。猟師をしながら鹿の精肉業をするのだったら両立できるんじゃないかな、って思って始めたんだけど、思っ

たより精肉業が忙しくて猟に出れなくなっちゃた。ちょっと本末転倒だよ(笑)

金丸 両立って難しいですか?

吉原 そうだね、精肉までなら何とかできるんだけど販売となるとそれにかなり手が取られてしまう。

金丸 僕は捕獲だけだから、そこまで時間がなくてことはないんですけど、吉原さん見てると本当に大変そうです。

吉原 捕獲する技術って猟をしていないとあがらないから、その時間を削られるというのはジレンマだよ。飲食店が取引相手だからコロナでなかなか売れないし、自分のお店の方も影響を受けて今は本当に大変。

堀之内 そうそう、作って売ってっていうの、「売る」っていうのが結構難しい。野菜作りは朝来市に熟練のプロが多いから、その中に割っていかないといけない。安全安心、有機野菜ってだけでは差別化できないから、おいしい野菜を作るにはどうしたらいいか、ってところにフォーカスします。最近、有機栽培の野菜がおいしいってことが科学的にも説明されるようになってきて、本当にその野菜にあった時期に、適切な肥料で育てたいな、と思っています。

金丸 堀之内さんの野菜セットを宅配してもらっているんですけど、おいしいし、届けてもらえるし、共働き夫婦にはありがたいです。

堀之内 なんでも軌道に乗せていくには時間がかかりますよね。野菜も一年に一回しか栽培できないものが多いですから、一足飛びにはいかないです。

吉原 そう、なんでも一長一短ではいかないよね。無駄だと思うことも、後でしといて良かった、みたいになることもあるし、何でもさ、積み重ねなんだよ。

仲間が大切

金丸 協力隊って、やっぱり仲間がいないとしんどいところがあると思うんです。何かするって言うても一人ではできないですから。吉原さんとの出会いがあって、狩猟のグループにも入れてもらったり、教えてもらったり、先駆者的な存在で吉原さんがいてくれたのは助かりました。

吉原 自分で言うのもなんだけど、だいぶ楽にいったとおもうよ(笑)。

金丸 吉原さんの背中を見ていたので、僕も負けてられないとがんばれましたね。

堀之内 そういう関係性はうらやましいですよ。

吉原 狩猟のグループは僕もいろいろ教えたもらっ

たし、新しい人が入ってきたら教えてあげるっていうのが続いていくのはいいよね。県でのマイスタースクールっていう狩猟の研修制度があって、僕は一期目なんだけど、同期の人たちといろいろ情報共有できるのも助けになった。

金丸 僕は五期生で、結構仲がいいです。同じ立場で話せる仲間っていうのは大切。そのつながりで、朝来市に移住を決めたメンバーもいて、猟友会も少し賑やかになりそうです。若いメンバーが楽しくやっていて、仲間も増えていって。朝来市猟友会はいい感じですよ。

協力隊のうちにやっておけばよかったこと

吉原 ビットコインを買っとくとかかな?今も上がってるから(笑)

金丸 協力隊と関係ないやないですか!僕は、何か形に残ることをしておけばよかったと思っています。例えば、競技射撃を練習し、大会に出て賞を取るとか。

吉原 豊岡市の有害鳥獣対策員の方が、大会でいい成績とられてるよね。

堀之内 僕は3年目から軽トラ市って感じで野菜を売ってたんですが、もっと早くからしといたらよかったなって思います。サラリーマンってものを売っている経験があまりないので、初めてのことであったから経験を積んどけばよかった。

金丸 僕は、販売員をしていて、結構高価な衣類を取り扱ってたから、お客さんに価値を説明して納得して買っていただくことが大切だと思っています。通信販売とかってそういう事ができないから、早くフリーマーケットとかで販売できるような時期が来るといいですよ。

吉原 任期中にいろいろ失敗したり、上手くいったりしたことを伝えて、次に続く人たちの助けになればいいよね。

アドバイスのこと

吉原 地域の一員になるって事が大切なのかな。地域になくてはならない住民の一人っていう感じ。そうなるのが上手い秘訣なのかな、って思う。自治協議会で地区の顔役の方々と知り合う機会があったのも良かった。

堀之内 関係性を作るってことですね。自治協議会の方や市役所の方に地域の方と繋いでもらうのはありがたかったので、これからの協力隊員もそういう部分



〈金丸 真次郎 profile〉

大阪府高槻市出身。美大を卒業後、アパレルメーカーに入社。ショップスタッフ、店長を経て、2018年1月より朝来市産業振興部農林振興課に着任。有害鳥獣対策に携わりながら、鹿の角を用いたインテリアやアクセサリの商品開発も手がけている。2020年12月に任期終了。



吉原 剛史

Yoshihara Tsuyoshi | 2014 - 2017

任期3年目から鹿肉処理販売施設を立ち上げて丸5年経ち、飲食店経営も始めました。猟友会でも朝来支部役員を任せられるようになりました。令和3年4月から朝来市観光協会自身で自身の語学力と旅で培ったノウハウを活かし、市内外の観光を盛り上げるお手伝いをします。



堀之内 智裕

Horinouchi Tomohiro | 2017 - 2020

新規就農し営農活動を始めました。無農薬・有機栽培で年間60品目以上の野菜を育て、旬の野菜を詰め合わせて宅配するスタイルです。お客さんも少しずつ増え、「美味しかった!」と褒めてもらえた時は本当に嬉しいです。栽培に関しては計画通りいかないことも多いですが、今後は栽培を安定させ、より多くのお客さんに野菜をお届けできるよう頑張っていきたいと思っています。



はぜひ頼りたいと思います。でも、人間関係って時間のかかるものだから、焦らずにやるしかないなあ。

金丸 3年間は準備期間なんてよく言われるけど、3年後も地域に住んで活動するわけだから、焦らずに取り組むのも大切ですよ。

これからのこと

金丸 最後に、皆さんから今後の意気込みを聴かせていただいてもよろしいですか？

堀之内 僕は、退任後念願だった新規就農を実現することができました。まだまだ試行錯誤の部分がありますが、計画通り経営を安定させ、地方で自立して暮らすという夢の実現をしたいと思っています。また、今後移住を検討されている方のモデルケースになればと思っています。

吉原 朝来市に移住して丸7年。まだまだ地域の方々

に支えてもらっている立場だけど、これからは地域を支える立場になりたいです。

金丸 僕は今年の1月から、再度試験を受けて市役所で有害鳥獣防止対策専門員として働いています。協力隊でつちかった3年間の経験を、今の職務に活かしていけたらと思っています。朝来市の猟友会にも積極的に参加して、狩猟の技にも磨きをかけたいですね。そして、微力ではありますが、将来的に市役所と猟友会の架け橋的な存在になればと思います。

吉原 農家と猟師でなにか一緒にできないかな？

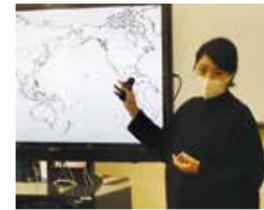
金丸 鍋セットとかならすぐにできるじゃないですか。鹿の「しゃぶしゃぶ」とかどうですか？

吉原 鹿は火を入れすぎると硬くなっちゃうから、「しゃぶしゃぶ」はちょうどいいかもね。

堀之内 野菜は何を入れたらいいかな？1回試しにやってみましょう！

隊員が集まれば、「何かおもしろいことやってみよう」って話になるのが朝来市地域おこし協力隊「あさこいひと」のいいところ。これからも、朝来市から素敵な企画が飛び出せば、そこには「あさこいひと」のメンバーが関わっているはずですよ。これからも応援よろしくお願いします。

現在までに朝来市地域おこし協力隊は、今年度12月卒業の金丸さんを含め13名が卒業。そのほぼ全員が朝来市に残り、新たな道を選んだ隊員もこのまちと関わりを持ちながら暮らしています。



岡野 未希

Miki Okano | 2014 - 2017

結婚を機に東京在住になりましたが、現在も生野でも活動を続けています。協力隊時代から引き続き、生野高校のカリキュラム開発を先生方と協働しながら行っています。コロナ禍ではリモートでミーティングを行いながらも、生野高校で授業を作ったり授業をしたりしています。その他に、リサーチ業務や沖縄の地域開発に携わる仕事をしています。来年度からは外務省にてSDGs推進やジェンダー・教育に携わる仕事も始まります。生野の活動も引き続きお世話になる予定です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



篠原 諒太

Ryota Shinohara | 2014 - 2017

朝来市に移住して7年。結婚し、子供も生まれ、ファミリーカーに乗り換え、家をどうしようかと悩む普通の生活を送っています。仕事は朝来市の観光情報を発信するwebサイトの管理や、本誌を含めて幅広くデザインのお仕事をしています。また、県立生野高校でも地域コーディネーターとして活動しています。地域を背負うという大きな責任は言えませんが、このまちでしっかりと自立することが家族のためにも、また地域への恩返しにもなると考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



松木 祥平

Syohei Matsuki | 2014 - 2017

私は、令和2年6月末に一般社団法人兵庫県地域おこし協力隊ネットワークを設立し、その代表理事に就任いたしました。兵庫県内の地域おこし協力隊に向けた研修やフォーラムなどを2ヵ月に1度程度実施しています。私の活動範囲は広くなりましたが、東西南北への移動が容易な朝来市在住の利点を活かしています。また、朝来市での活動経験は、他の地域の地域おこし協力隊の支援に役立っていると思います。



佐竹 鑑

Satake akira | 2015 - 2018

楽しい複業を目指して、日々暮らしています。地元のごども園で働きながら、米作りやシイタケ栽培をしています。昨年、大きな事故を経験して、いろいろなことに挑戦するのは良いけれど、焦ったり欲張ったりしないように気を付けなければと強く思うようになりました。それでも今年は、もう少し山の作業ができる時間を作りたいと思っています。



高田 尚希

Naoki Takada | 2015 - 2018

こんにちは、大蔵地域に赴任した高田です。協力隊卒業後も、猟師の先輩方にご指導を頂きながら、地域に見守って頂き、ジビエの生業を続けています。毎日一生懸命に取り組むことが有ることは、とても有難いことだと感じています。2歳になる息子も鹿肉が大好きで、毎晩の食卓には何かしらジビエの料理が出てきます。来年度から大蔵地域に新たに2名の協力隊が来たり、若い人が帰ってきたりと、地域が楽しくなりそうで、今からワクワクしています。ホームページができましたので、よろしければ見てください。〈但馬のジビエココ鹿(cocojika.com)〉



中島 英樹

Hideki Nakashima | 2015 - 2018

ご無沙汰しております。当時梁瀬地域で活動しておりました、協力隊OBの中島です。この度は掲載してもらえということありがとうございます。私は、この一年くらいは、仕事でZOOMなどのオンラインツールを使うことが増えました。新型コロナウイルスの猛威は、社会の多くの人を苦しめています。そのような状況でもできることを探しながら仕事をする日々です。ZOOMの家庭教師もその1つ。移住してくる前の得意なことを活かしながら日々チャレンジしています。



西村 大輔

Nishimura Daisuke | 2015 - 2018

朝来市に来て6年が経ちました。当初、単身赴任で数年は私だけでしたが、今は家族と一緒に暮らし、子供も3人に増えました。上の子は、いつの間にか小学生に。念願の古民家と農地を取得して、出来る範囲は自分で家を改修しています。任期中に同期だった隊員と一緒に(一社)朝来まちづくり機構を作り、今も一緒に仕事をしていますが、自身ではミツバチを飼育しながら食育を組み合わせた果樹観光農園の開業を目指し現在奮闘しています。





撮影：Rehan Nel